



IoS-OP
Pコンソーシアムの事務局を務めるシッ
プデータセン
ター(Shi
pDC)の太
田垣由夫・経
営アドバイザー
(元ジャパ
ンマリンユニ
テッド副社
長)は、同サ
ービスに
対する講評で「非常
に日本のEEZ
(排他的
経済水域)で
はまだ経済
活動があまり
行われてい
ない。この船
ができれば、
海上、海中
(漁業など)、
海底(資源開
発など)と、
EEZ内の経
済活動が加
速されるの
ではないか」と
語った。

ただ使える脱炭素社会
実現が目的。陸上と異
なり、安定してクリーンエ
ネルギーを提供できる点
などが特徴となる。
同船は、AI(人工知
能)などを活用して発電
効率の良い場所を探し、
移動することが可能。さ
らに、海水から水素を取
り出すことで、水素バン
カリング(燃料供給)船
としての機能も見込む。

このほか、「NOFO
OD WASTE or SAVE
THE FOOD(フードロ
スデータプラットフォーム)」「Shuhari
GO」「グローバルスマ
ートシェアリング養殖」
「ドAIもん」の新サ
ービスが発表された。

同アイデアソンでは、
オリジナル教材を使用
し、参加者が「ヒトの本
性」「社会潮流」「技術」「ビ
ジネス」の4つの視点で
考え、それぞれを結合し
ながら議論を進めた。日
本郵船の石澤直孝イノベ
ーション推進グループ長
兼NYKデジタルアカデ
ミー学長が講師を務め
た。石澤氏は「多様に考
えることが新しい価値創
造で非常に重要」と参加
者に強調した。

IoS—OP 社会課題解決策を創造 海事と異業種でアイデアソン

IoS(船のインター
ネット)オープンプラッ
トフォーム(IoS—O
P)コンソーシアムは24
—25日、「海事×異業種
オープンイノベーション
・アイデアソン」を開い

た。海事産業と他産業が
持つ技術やビジネスモデ
ルなどを掛け合わせ、社
会課題の解決に向けたア
イデアの創出に取り組ん
だ。第4回の今回は、風

力・太陽光・水力発電設
備などを載せた「発電て
んこもり船」などの新サ
ービスを5チームが創造
した。
Aチームが発表した
「発電てんこもり船」は、
誰もが自由に電気を好き